

2. 事業の概要と成果													
（１）プロジェクト目標の達成度 （今期事業達成目標）	女子の中等教育の就学率が低い KP 州トルガー郡、マンセラ郡、アボダバード郡で、計 3 校の公立学校の学習環境改善を通じ、計 2,203 名の女子に中等教育へのアクセス及び質の高い教育を確保した。教員や保護者への研修、ICT の活用や女子生徒のライフスキル強化などソフト面の支援を行うとともに、コミュニティ、教育局、州行政間の連携強化や大学生など多様なアクターを巻き込んだアドボカシー活動を通じ、効果の発現を促進した。 女子の中等教育就学環境が改善し、女子教育を取り巻く課題にコミュニティや学生ボランティア、郡及び州行政が包括的に取り組む仕組みづくりが促進される												
（２）事業内容	1. 女子の中等教育就学促進のための施設拡充 トルガー郡、アボダバード郡とマンセラ郡の計3カ所のユニオンカウンスル（ユニオンカウンスル（UC）は、District(郡)、Tehsil（郡）に次ぐ下位の行政単位。以下、UC）において、中学・高等学校計3校の校舎施設を建設し、女子が安心して中等教育にアクセスできるよう支援した。あわせて、女子就学の阻害要因であったトイレや境界壁等の施設不足を解消すると同時に、耐用年数が長く災害時にも備えられる太陽光パネルを設置した。各建設地には業者による現場監督配置に加え、当団体の有資格エンジニア計3名を常駐させ、工事の進捗と品質を日常的にモニタリングした。建設業者との打合せを密に行い、必要に応じ業者への技術的指導も行った。また建設工事中も政府職員が事業地を視察し、工事内容が学校設備の基準に適合するかなど検査、確認するとともに、国立エンジニアリングサービスが耐震性や強度を検査した。各校舎落成時には、校舎中心部にプレートを、主に校門付近にサインボードを設置した。 国際的な原油価格や建設資材の価格高騰に加え、ルピー安やインフレの急速な昂進により、建設資材が急騰し、加えて輸送燃料の価格上昇も大きかったことから、Shamdara校のトイレ棟建設、Havelian Village校のソーラーパネル設置、及び学校家具の一部支給の中止を余儀なくされた。生徒学習用の机／ベンチは計画通り支給したことから、就学率向上など事業目標達成への影響は最小限に抑えた。なお、建設を中止したShamdara校のトイレ棟については、便器数を減らすなどし、団体の自己資金を充当して建設した。 また、1年次に物価高騰と為替差損のために購入できなかった対象4校（New Kalay校、Judbah校、Shinkhari校及びLora校）に対して、職員用家具、インタラクティブボード及び多目的ホール用の椅子などの学校家具を提供した。 工事活動中、コミュニティアドボカシーグループ（CAG）や保護者、教育局など事業関係者から、当初の計画にはなかった自発的な協力が得られた。具体的には、普段通行に利用していない道路の障害物を取り除く作業や建設資機材の輸送アクセスの確保、また建設地付近の湧き水をカート等で運び調達したり、ラマダン中の夜間工事用に発電機を無償で貸し出す、労働力を提供するなど様々なサポートを得られた。 表 1：建設工事の概要 <table><tr><th></th><th>学校名</th><th>工事内容</th></tr><tr><td>1</td><td>Mera Mada Khel 中学・高等学校</td><td>2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 3、職員室 1）、境界壁及び擁壁の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等</td></tr><tr><td>2</td><td>Shamdara 中学・高等学校</td><td>2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 6）、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等</td></tr><tr><td>3</td><td>Havelian Village 中学・高等学校</td><td>2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 2）、トイレ棟、水道・水タンク及び電気工事等</td></tr></table>		学校名	工事内容	1	Mera Mada Khel 中学・高等学校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 3、職員室 1）、境界壁及び擁壁の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	2	Shamdara 中学・高等学校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 6）、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	3	Havelian Village 中学・高等学校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 2）、トイレ棟、水道・水タンク及び電気工事等
	学校名	工事内容											
1	Mera Mada Khel 中学・高等学校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 3、職員室 1）、境界壁及び擁壁の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等											
2	Shamdara 中学・高等学校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 6）、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等											
3	Havelian Village 中学・高等学校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 2）、トイレ棟、水道・水タンク及び電気工事等											

2. 女子教育の質向上のための教員、保護者への研修及び ICT の活用とライフスキル教育の実施

より質の高い教育を提供し、事業成果を持続させることができるよう、教育環境整備に加え、教員や保護者への研修及び女子生徒へのライフスキル教育などソフト面も支援した。また、インタラクティブボードやインターネットを使用して授業を実施する ICT 教育機材を Shamdara 校と Havelian Village 校に設置した。研修の実施概要は以下のとおり。

表 2. 研修等実施の概要

研修対象	計画	実績	研修概要	備考
教員	53 名 Mera Mada Khel 校 7 名 Shamdara 校 16 名 Havelian Village 校 30 名 各校計 3 回、1 日間	1 回目 2～3 月 参加者 3 校計 50 名 2 回目 2～3 月 参加者 3 校計 49 名 3 回目 5 月、8 月 参加者 3 校計 48 名 各回 1 日間 開催場所は各校	双方向の教授法、アクティビティベースの学習法、協働学習法、プロジェクトベース学習等。	産休等で研修に参加できなかった教員に対しては、参加した教員が内容や学びを共有した。
PTC(保護者)	24 名 各校 2 回、1 日間	1 回目 3 月 参加者 3 校計 22 名 2 回目 5～6 月 参加者 3 校計 23 名 各回 1 日間 開催場所は各校	PTC の役割と責任、定期会合、会計管理等運営方法、学校運営方針、学校運営への参画法、学校改善計画の作成、政府の PTC 対象助成金の申請方法等。	PTC フォローアップミーティングを計 8 回実施した。
ガールズサークル (GC) メンバーを含む対象校の女子生徒	各校 15 名、計 45 名 各校 1 回、半日間	1～3 月 参加者 3 校計 45 名 各回 1 日間 開催場所は各校	ライフスキル教育内容：健康と衛生管理、ポジティブシンキング、批判的思考力、対人関係スキル、コミュニケーションスキル、チームワーク、自己管理、自己理解、自己認識等。	
ICT 機器設置後の使用法研修	Shamdara 校及び Havelian Village 校教員 各校 1 回、半日間	5 月 参加者 2 校 教員計 21 名 生徒 43 名	機器使用法その他、「eラーニング」と「集合研修」を併用したブレンディッドラーニング、授業計画と生徒の評価、パフォーマンスの測定等。	理数系の教員を中心に使用法の研修を行い、参加教員から他の教員にも共有を行った。研修を受けた生徒は、授業中 ICT 活用の際にデモンストレーションを行う際に、教員と共に見本を見せられるように訓練を受けた。

教員研修では、生徒同士が互いに協力し議論しながら学ぶ協働学習やプロジェクトベースドラニングなど、これまでの板書中心の授業から生徒の学習意欲や理解度を確実に向上させる教授法を紹介、授業で実践できるよう指導した。また、新しい指導法への理解度や意識の変化を測るアンケートを実施、それをもとに教員参加者間で意見交換を行った。

PTC 研修の 1 回目は PTC の構造、役割と責任、記録や会計管理など運営スキルを指導し、2 回目は学校運営改善計画の作成及び政府への助成金申請法など実践的な内容とした。学校ごとに計 2 回のフォローアップミーティングを持ち、PTC が実際のどの程度学校運営に関与できたか進捗を把握し、状況に応じた話し合いや助言の提供を行う場とした。

対象各校でそれぞれ 15 名から成るガールズサークルを形成した。加えてその活動実施をフォローする教員も各校で任命された。ライフスキル教育は、健康と衛生など日常生活能力を向上させる基本的な内容から、自己理解やストレスマネジメント、意思決定やチームワークなど思春期の青年に必要な社会的スキルも強化した。双方向のディスカッション、ロールプレイやインタビューを盛り込み、コミュニケーション力や批判的思考力向上の相乗効果も見られた。各校のガールズサークルメンバーは、ライフスキルセッション受講後、学んだ内容についてインタビューやゲームを交え他の生徒に対し学びの共有を行った。

また、1 年時の対象校 4 校を訪問しフォローアップを行った。校舎施設の維持状況や生徒の出席率、学習状況を確認した上で、教員、PTC、CAG 及び GC メンバーのその後の活動の進捗をモニタリングし、必要に応じ指導や助言を提供した。

3. 女子の就学機会の保障及び中等教育就学促進のためのアドボカシー活動（コミュニティ、郡及び州レベル）

対象 3 カ所の各 UC において住民代表 15 名によるアドボカシーグループ（CAG）の組織化を行った。本事業の説明と今後の CAG の役割やアドボカシーの仕組みを説明するコミュニティミーティングを各 UC にて設け、対象地域の住民計 130 名が参加した。CAG は教育専門家、政治家、宗教的リーダーなどで構成される。同時に、当初計画にはなかったが、女性の参画を一層促す女性サポートグループが UC Shamdara（計 10 名）及び Havelian Village 校のある UC Jhangra（計 8 名）で立ち上がった。CAG の形成にあたり、女子生徒の家庭訪問など特に女性でチームを組むことにより動きやすい面も多いなど、住民や保護者から自発的に声があがったことが同サポートグループの立ち上げにつながった。なお CAG は、定期的に会合を持ち、コミュニティ内の女子教育の問題点やニーズを話し合い、政府に働きかけるべき重要な課題を特定、各郡当局との対話を行った。さらに、コミュニティの中でいかに効果的に啓発活動を行っていくかメンバー間で議論し、SNS を通じて入学キャンペーンを呼び掛けたり、訴求力のあるメッセージの作り方やより広く住民に発信する方法などについて話し合うなど主体性も発現し出している。

Hazara 大学のアボダバード郡、マンセラ郡、バタグラム郡の各キャンパスで計 31 名の女子学生が、ガールズユースアンバサダー（GYA）として選ばれ、その役割や責任、アドボカシーやメンタリングの実施方法についてオリエンテーションを受け、活動を開始した。当初予定していた GYA30 名の決定後に、アボダバードの大学副学長より追加で 1 名の推薦があり、面接を通じて本人の高いモチベーションも確認されたため受け入れた。GYA は、対象 3 校を訪問し、4 月～9 月の半年間で延べ 90 名の GC メンバーに対しメンタリングを行った。GYA は通学継続が困難な状況に関して相談を受けたり、自身の経験を話すなどして、女子生徒への動機づけや力づけを行った。GYA は、さらに各 UC の CAG と計 9 回調整会議を持ち、学校へのアクセスや安全面、ドロップアウトなどの問題が話し合われた。

また、第 1 年次に州レベルで組織化されたアドボカシーグループ（KPG）のメンバーを拡大し、GYA や女性の権利擁護活動家、教育専門家などが加わった、政策提言グループが

形成された。構成メンバーの中心を成す GYA は、メンタリングセッションや自身の経験から女子の生の声を取りまとめ、女子が直面する問題点や就学、就職に関わる優先課題について、CAG と調整の上、セミナーの場で提言として取りあげ、政策立案者に届けた。また、関係者との協議の結果、SNS などのツールに加え、広くかつ親しみやすい形で一般市民にメッセージを届けるべく、現地提携団体の協力を得てトークショーを企画、計 4 回開催した。トークショーには、教育分野の有識者、教育局職員、CAG メンバー、GYA、本事業職員が登壇した。女子教育に関し地域が抱える課題について GYA 自らが声を上げ、実質的な解決に向けた政府の協力を呼び掛けた。同ショーは州レベルのテレビニュースで放送されたり、YouTube チャンネルにもあげられた。アドボカシー活動全体の実績は以下のとおり。

表 3. アドボカシー活動の実績

活動	計画	実績	備考
CAG	住民代表 15 名による CAG の組織化 (各 UC)	UC 計 3 カ所で住民代表 15 名による CAG が組織化された。	UC Shamdara (計 10 名) 及び Havelian Village 校のある UC Jhangra (計 8 名) では、女性のサポートグループもあわせて形成された。
GYA の編成と組織化	女子学生計 30 名による GYA の組織化 (各郡 10 名)	女子学生計 31 名による GYA が組織化された	31 名の内訳は次の通り。バタグラム郡及びマンセラ郡各 10 名、アボダバード郡 11 名
GYA によるメンタリングセッションの実施	各校 2 回	Mera Madha Khel 校 計 2 回 5 月 GC30 名、GYA7 名参加 Shamdara 校 計 2 回 4～5 月 GC30 名、GYA20 名参加 Havelian Village 校 計 2 回 8～9 月 GC30 名、GYA20 名参加	
GYA、CAG の調整会議実施	計 9 回 (各郡 3 回)	Mera Madha Khel 校 計 3 回 10～11 月 GYA14 名、CAG19 名参加 Shamdara 校 計 3 回 4 月、8 月、11 月 GYA13 名、CAG 18 名参加 UC Jhangra 計 3 回 9～10 月 GYA22 名、CAG 23 名参加	計 9 回のうち 4 回はトークショーの形式で行った。
政策提言グループの形成	計 50 名による政策提言グループの形成。全体説明会 1 回実施。	計 50 名の政策提言グループが形成された。政策提言セミナー第 1 回開催時に全体説明会を実施した。	全体説明会をセミナーとは別途設ける予定だったが、グループメンバー、特に政治家や行政関係者より参加の調整が困難との意見を受け、セミナー実施にあわせて開催した。
政策提言セミナーの実施	計 3 回	8 月参加者計 86 名 9 月参加者計 119 名 10 月参加者計 100 名	

(3) 達成された成果

1. 女子の中等教育就学促進のための施設拡充

成果指標の達成状況は以下のとおりである。

表 4. 成果指標の達成状況（コンポーネント 1.）

期待される成果	成果を測る指標	実績
● 非就学状態にある女子生徒の中等教育への就学や復学が促進される	✓ 対象の中学・高等学校各校の純就学率が 90%に改善する （現在の割合は次のとおり。 Mera Mada Khel 校 28%、Shamdara 校 32%、Havelian Village 校 33%） ✓ 対象の中学・高等学校における各校の退学率が、現在の割合 Mera Mada Khel 校 39%、Shamdara 校 34%、Havelian Village 校 32%から 3%に減少	✓ 対象校の純就学率が以下の通り改善した。 Mera Mada Khel 校 52.5%、Shamdara 校 100.0%、Havelian Village 校 105.0% ✓ 対象校の退学率が以下の通り改善した。 Mera Mada Khel 校 0%、Shamdara 校 4.8%、Havelian Village 校 3.27%
● 女子が通学しやすい学校環境が整う	✓ 対象 3 校の生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保する	✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保した。
● 中学・高等学校への校舎建設の結果、過密状態の改善により収容能力が向上し、中等教育への女子のアクセスが向上する	✓ Mera Mada Khel 校、Shamdara 校および Havelian Village 校の計 3 校の学区で非就学状態にある就学年齢の女子児童 714 名が新たに中等教育の学校へ入学ないし復学して通学を開始する（学校への登録者数計 2,262 名を達成）	✓ 3 校の学区で非就学状態にあった就学年齢の女子児童 655 名が新たに中等教育の学校へ入学ないし復学して通学を開始した（学校への登録者数計 2,203 名を達成した）。

対象 34 校の学校環境を整備した結果、10～15 歳の生徒 2,203 名に安全で充実した学習環境へのアクセスを確保できた。対象校の純就学率が平均 31%から 85%に改善し、退学率は平均 35%から 2.7%に減少した。トルガー郡では、民家の一角で学んでいた女子が自分たちの学校を持つことを実現させ、過密状態であったマンセウ郡やアボダバード郡の学校では、入学を断られたり、校庭や廊下で授業を受けていた女子が安全な環境で学習できるようになった。さらに、トイレなどの衛生設備や校舎の安全を守る外壁の確保は、保護者が安心して子どもを通学させるなど特に青年期女子の学校への再登録や通学継続を促した。険しい山岳地帯が拡がり人家がまばらな Mera Mada Khel 校の学区では、入学を希望する女子生徒が一定程度存在するものの、登録者数が指標に未だ届いていない。PTC や CAG の協力のもと障害となっている通学手段を確保するなどし、2023 年の正式な入学時期 5 月までに約 60 名程の新規登録を見込んでいる。

2. 女子教育の質向上のための教員、保護者への研修及び ICT の活用とライフスキル教育の実施

成果指標の達成状況は以下のとおりである。

表 5. 成果指標の達成状況 (コンポーネント 2.)

期待される成果	成果を測る指標	実績
● 教員の能力や教授法が向上し、女子が学びやすい授業や学級運営が行われ、継続的通信が促進される	✓ 対象各校の出席率が 90% に改善する (現在は次の通り。 Mera Mada Khel 校 53%、Shamdara 校 65%、Havelian Village 校 62%) ✓ 教員 53 名の内 94% が学んだ指導法や新しい学級運営法を実践する	✓ 対象各校の出席率が以下の通り改善した。 Mera Mada Khel 校 89%、Shamdara 校 96%、Havelian Village 校 95% ✓ 教員の 90% が研修で学んだ指導法や新しい学級運営法を実践した
● ICT 機器の活用により、わかりやすくアクティブに学ぶことのできる質の高い授業が導入されると同時に女子児童の情報活用能力が育成される	✓ 事業開始時と比較し生徒の学力テストの結果が各校平均 30% 以上改善する ✓ 事業開始時と比較し生徒の発言の頻度が各校平均 60% に増え、能動的に学習に取り組む姿勢が授業の都度確認される (現在は学級生徒の 15-20% が発言。) ✓ 教員 53 名の内 85% が授業に ICT 機器を使用し、生徒の主体的参加を促す	✓ 事業開始時と比較し生徒の学力テストの結果が、Shamdara 校で 27% から 76% に、Havelian Village 校で 36% から 77% に改善した。 ✓ 生徒の発言頻度が 11 月までに各校平均 60% に増え、能動的に学習に取り組む姿勢 (発言、挙手、質疑、発表) が授業で確認された。 ✓ Shamdara 校の教員の 90%、Havelian Village 校の教員の 95% が授業で動画視聴、評価、質問の投げかけ等で ICT 機器を使用し、生徒の主体的参加を促した。
● 保護者が女子教育の重要性を認識し、学校運営への参画の度合いが高まる	✓ PTC メンバー 24 名のうち 90% が学校運営改善計画の作成に関わる。 ✓ 対象全校が PTC を中心に学校運営改善計画を実施する	✓ PTC メンバー 24 名の 100% が学校運営改善計画の作成に関わった。 ✓ 対象全校が PTC を中心に学校運営改善計画を作成し、実施した。
● ガールズサークル (GC) が形成され、女子児童がライフスキルを習得する	✓ GC (各校 15 名) が対象 3 校で活動を開始する。 ✓ ガールズサークル企画のアクティビティ実施事例 (各校 4 件以上)	✓ GC (各校 15 名) が計 3 校で活動を開始した。 ✓ 全 3 校で GC 企画アクティビティの実施事例が各校 4 件以上確認された。
● 1 年次の対象校 4 校の教員、PTC、GC がフォローアップを受けることにより、活動を継続する	✓ 1 年次の対象の教員、PTC、GC や生徒による改善事例 (各校あわせて 5 件以上)	✓ 1 年次の対象 4 校の教員、PTC、GC や生徒による改善事例が各校あわせて 5 件以上確認された。

研修後のモニタリングでは、教員らが学びを活かして個々の生徒のニーズにあったレッスンプランを作成し、生徒の理解を促す最善の方法を考案しようと努力している様子やモチベーションをもって指導にあたっている様子が確認できた。教員からは「理解の仕方が

個々に異なる生徒のニーズにどう対応できるか、教室で最善の方法を考える良い機会になった」との感想が寄せられ、「講義ばかりでなくグループワークに取り組むと難しい概念なども理解できるようになった」という声が生徒からあがっている。

また、ICT 機材の利用は授業の質向上に大きく役立っている。「理科の実習を行う設備がないため、映像は非常に効果的。また、短時間で効率的に授業を配信したり、生徒のパフォーマンスを評価するツールもセットされている。」と多くの教員から好評だった。

PTC は、研修参加後、定期的に集まると同時に学校側との会議も頻繁に持つようになった。フォローアップの結果、PTC メンバー全員が各校の開発計画作成に関わり、積極的に計画実行にあたっていることがわかった。中途退学した地域の女子の家庭を一軒一軒訪問し、保護者に復学を進めるドアツードアキャンペーンは、既述の中退率の減少に大きく貢献した。さらに、教育局へ申請、獲得した資金を活用した教員の雇用や学校設備の修繕も PTC によって行われた。PTC が積極的に学校運営に関わり始めたことは、教員のモチベーションや生徒の学習意欲にも良い影響を与え、学校の活性化に貢献している。

ライフスキル研修を受講したガールズサークル (GC) の生徒からは、次のような感想があげられた。「アクティビティを通じて自分を認め、自分の考えを他の人と共有できるようになった。」「周りの人のハッピーな表情に気づけるようになった。」「ストレスがあっても感情をコントロールして健全な状態を保てる術を学んだ。」「これまでの学校生活では友達と自分の考えを話すことも恥ずかしくできなかったが、ライフスキルのアクティビティを通じて自分の可能性に気づけた。」GC は学びを同級生に講義をしたり、ゲームを通じて一緒に楽しみながら学ぶセッションを設けるなどした。加えて、GC はスポーツやスピーチコンテスト、ゲームなどのイベントを自律的に企画、校内で実施し、ライフスキル習得の効果を顕現する機会ともなった。学校生活における女子生徒の積極性や活発さは、事業開始と比較し各段に増した。女子が自信を身に着け、将来地域で活躍する人材として高いポテンシャルを示し始めている。各校の GC の活躍は主に次のような事例で見られた。

Mera Mada Khel 校：

- 適切な手洗いや入浴の仕方など身の回りの衛生管理について話し合うセッションを企画実施した。
- 生徒の前で歌唱やパフォーマンスを披露する会を催した。

Shamdara 校：

- 女子の進学について保護者と意見交換の会を持った。
- バレーボールやバトミントン、英語スピーチや合唱などの地区大会に出場し入賞した。
- PTC のドアツードアキャンペーンでの家庭訪問に同行し、通学のメリットについて保護者に話をした。

Havelian Village 校：

- 女子の進学について保護者と意見交換の会を持った。
- 障害を持つ生徒に地域の競技会への参加を促し、応援した。
- 学校の敷地内で緑化運動としてガーデニングを始めた。
- 結婚して学業を離れていた友人を訪問、配偶者を説得し、復学が実現した。
- 母親の叱責等のため 8 年生で中途退学した女子の母親と話し合い、再入学に導いた。

3. 女子の就学機会の保障及び中等教育就学促進のためのアドボカシー活動(コミュニティ、郡及び州レベル)

アドボカシー活動は、コミュニティや郡、州レベルで多様なアクターを巻き込んで展開した。成果指標の達成状況は以下のとおりである。

表 6. 成果指標の達成状況 (コンポーネント 3.)

期待される成果	成果を測る指標	実績
● 地域住民の意識が向上し、女子教育の課題について行政に働きかけを行うことが可能な仕組みが構築される	✓ CAG (各グループ 15 名) が 3 カ所の郡で活動を開始する ✓ CAG による郡当局への働きかけなどの事例 (各グループ 2 件以上) ✓ 女子教育向上運動の開始など住民の行動変容事例 (各グループ 2 件以上)	✓ CAG (各 15 名) が 3 カ所の UC で形成され、活動を開始した。UC Shamdara、UC Jhangra では女性のサポートグループも活動を開始した。 ✓ CAG による郡当局への働きかけの事例が UC Mera Mada Khel 1 件、UC Shamdara 3 件、UC Jhangra 1 件確認された。 ✓ 住民の行動変容事例が各 UC で 2 件以上が確認された。
● GYA の組織化と活動を通じて当事者の意見が政府に届く機会が創出される	✓ GYA のグループ (計 30 名) が形成され、その役割と責任が明文化、関係者に周知される ✓ GYA がコミュニティや州レベルの会議への出席などにより活動を開始する (各メンバー計 3 回以上出席) ✓ GYA のメンタリングにより力づけされたガールズサークルメンバーが保護者や地域の住民と女子教育に関する問題を話し合う (各校 2 件以上)	✓ GYA のグループ (計 31 名) が形成され、その役割と責任が明文化、関係者に周知された。 ✓ GYA がコミュニティや州レベルの会議への出席 (各メンバーが計 3 回以上) などにより活動を開始した。 ✓ GYA のメンタリングにより力づけされたガールズサークルメンバーが保護者や地域の住民と女子教育に関する問題を各校 2 件以上、話し合った。
● 政策レベルにおいて、女子の中・高等教育を受ける権利擁護の政策提言グループ確立により持続的なアドボカシーのメカニズムが構築される	✓ 政策提言グループが組織化され、セミナーを主催するなど活動を開始する (セミナー実施計 3 回) ✓ 州立法議会や州内閣において女子の中・高等教育を受ける権利を支持する政策案が提出される (期間中 3 件以上) ✓ 政策提言グループの働きかけにより、州政府の資源を動員した事例 (2 件以上)	✓ 政策提言グループが組織化され、活動を開始、政策提言セミナーが計 3 回開催された。 ✓ 州立法議会や州内閣において女子の中・高等教育を受ける権利を支持する政策案が 3 件以上提出された。 ✓ 政策提言グループの働きかけにより、州政府の資源を動員した事例が 2 件以上あった。

各 UC の CAG は、女子教育の重要性に関わる議論を始め、その優先課題について政策レベルに働きかけを行った。CAG の主体的な取り組みとして次のような事例があげられる。

UC Mera Mada Khel :

- 州議員及びトルガー郡副長官と会談し、Mera Mada Khel 校への上級校の設置について働きかけた。
- 非就学の子の家庭を訪問し、中途退学をした女子の登録を促した。
- 25 万人のフォロワーを持つフェイスブックのページ「New Torghar Awaz」で学校登録キャンペーンを開始した結果、計 9 名の女子が Mera Mada Khel 校に登録を果たした。

UC Shamdara :

- 州議員と会談し、Shamdara 校や地域の女子小学校のアップグレードや女子小学校の認可について働きかけた結果、関係教育担当官に指示が出された。
- フェースブックを活用して入学キャンペーンを実施し、20 万 9 千人以上の住民がアクセスした。その結果、計 49 名の女子が Shamdara 校に登録を果たした。
- ソーシャルメディアプラットフォーム「OGHI National TV」を通じて、女子の入学キャンペーンを開始した。同ページには 78,000 名のメンバーが参加し、359,987 人にメッセージが届いた。
- ローカル新聞 2 紙に女子教育に関わる啓発メッセージを掲載した。
- CAG 女性サポートグループは、PTC のドアツードアキャンペーンに協力し、学校環境が一新されることから安心して通学できることが可能になるなど保護者へ説明した。

UC Jhangra :

- 州議員と会談し、Havelian Village 校への上級校の設置について働きかけ、協力を保証する旨、言質が得られた。
- 宗教リーダーと面談し、女子が教育を受ける権利について金曜日の礼拝で講話をするよう依頼した。
- フェースブックを活用して入学キャンペーンを実施し、14 万 8 千万人以上の住民がアクセスした。その結果、計 66 名の女子が Havelian Village 校に登録を果たした。

女子教育向上を訴求するための新しい試みとして組織化された 31 名の GYA は、中高生の女子のよいロールモデルとなった。さらに、メンタリングセッションを通じ、GC の話に親身に耳を傾け、力づけを行ったことが、既述のような GC の活躍に結びついた。

また、計 4 回開催されたトークショーは、教育分野の有識者、教育局職員、CAG メンバーに加えて、GYA も登壇し、女子教育に関し地域が抱える課題について GYA 自らが声を上げ、実質的な解決に向けた政府の協力を呼び掛けた。トークショーは地元のメディアで取り上げられ、州レベルでテレビ放送されると同時に、YouTube にもあげられた。山岳地帯にある対象地では対面でのコミュニケーションが難しいことから SNS やテレビの活用は大きな効果をもたらす啓発ツールであるともいえる。

GYA は、政策提言に向け、当事者として権利を主張したり、学校現場の女子の声を CAG や政策提言の場につなぐ架け橋の役割を担った。州レベルで開催した政策提言セミナーでは、GYA を中心に当事者や地域の声を政策に届ける場を設けた。「空席の女性教員を確実に配置してほしい」「児童婚に関わる法律の施行を望む」など女子教育推進のための具体的な策が主に GYA によって提言された。

政策提言グループにより、①女子が高等教育を受けられるよう、上級校設置のための予算を確保する、②質の高い教育を提供するために、教員の空席をなくし、専門家を配置する、及び③学校活動のより良いガバナンスのために、学校長を確実に配置する、などの政策案があげられた。政策提言グループの働きかけにより資源が動員された事例としては、PTC の資金申請に対し積極的な応答や承認が得られるようになったことから、長く空席であった中学・高等学校の教員が採用されたケース、またマンセウ郡、アボダバード郡の女子の小、中学校でダブルシフト制が開始されたケースなどがあげられる。

(ア) ～ (エ) の活動を通じた直接裨益者数は、女子生徒 2,203 名 (10～15 歳)、教員 53 名、PTC24 名、CAG63 名、GYA31 名、州レベル政策提言グループ 19 名¹、ならびに間接裨益者数は、約 333,525 名である。

¹ GYA の参加人数を含まない。

(4) 持続発展性	校舎施設の工事完了後、学校長、教育局職員、PTC の立ち合いの下、各学校への引き渡し式を行い、覚書を手交した。支援した学校設備や校舎の管理は正式に行政に移譲され、学校校舎の維持管理は PTC が年次で教育局に申請し補助金が支給される仕組みとなっている。州政府が予算を確保し、学校運営、また適切な人数の教員の雇用や能力育成にも責任を持つことが担保されている。またソフト面においても、教育局が学校への訪問モニタリングやフォローアップの継続を確約すると同時に、本事業の現地提携団体 Friends Welfare Association (FWA) も教員、PTC、GC 及び CAG など各アクターの活動に対しフォローアップを行っていく。加えて、各 CAG からは終了後も学校環境維持や学校活動促進に協力する旨合意を得ている。 GYA は、現場から政策レベルへのブリッジングを可能にする重要で有効なアドボカシー人材といえる。しかし、自分たちの意見をどう政策提言の場へと届け、影響を及ぼしていくことが可能か、未だ模索している状態でもある。各メンバーが自信と能力を向上させ、当事者としての役割を活かしながら活動を推し進められるよう、今後 GYA のスキルやコミットメントの向上をより一層図り、CAG や政策レベル、また教育専門家や活動家等多様なアクターの動員や連携体制がうまく機能するよう支援を強化していく。
------------------	--